

総務委員会 県内調査活動状況

1 日 時 平成24年11月29日(木)

2 委員出席者 (9名)

委員長 望月 勝

副委員長 山田 一功

委員 武川 勉 石井 脩徳 山下 政樹 鈴木 幹夫

永井 学 高木 晴雄

欠 席 皆川 巖

3 調査先及び調査内容

(1) 【意見交換会】

① 出席者

NPO法人 フードバンク山梨 職員

② 内容

ア 概況説明

「NPO法人の活動について」

イ 意見交換会

「行政とNPOの協働について」

主な意見

議 員)

この流れを見ると、ようするに生活困窮者がですね、そちらのほうへ連絡が行政からいくっていうことになる。行政から話がたって、こういう方がいて、苦しんでいるんで、ご支援願いませんか。先ほど、ハローワークで紹介されたという。行政のかたからAさんとう方がいて、非常に困っているんで、フードバンクさん少し御支援頂けませんか。という形で。その時にですね、何も調査とかしないで、そちらの依頼どおりにそのままやるんですか。それが1点と。その1人の方、3ヶ月ですか、3ヶ月以降というのは当然ない、ということなんではなかね。その辺、2点ほど教えて頂きたい。

出席者)

今、行政からの申請ということであるが、窓口に来られたときに全ての方が困窮されていた場合生活保護を取れるとよいけれども、主には財産処分が出来ないとか、自分自身もまだ働ける、取りたくないとか、生活保護というものがすごく偏見的で、今、社会の中でタレントの親の扶養とかいろいろなことあり、非常に自分自身のプライドとか、そういう方が取らないとかの事情もあり、そのような方に例えば就職するまでに食料の支援をする。窓口に来られる方というのは、本当にもうお金がない。10円、20円とか100円とかしかない方や3日も4日も食べていないような方がすぐ来るので、その場ですぐお渡しできるメリットもあるし、申請はご本人にさせていただくのであるが、行政のほうでは生活保護につながる前でも、その方が生活保護と決まっても、1ヶ月くらいは、すぐにお金が出せない。そういうことで、1ヶ月間はお願いするというので申請もあるので、さまざまな仕事をしながら支援を受ける方と生活保護だけ1ヶ月間何も食べるものがないということで、それと3ヶ月の問題であるが、私たちも自立をそぐわないようにということで、3ヶ月の約束をたてているけれども、やはり今、高齢者の貧困問題が非常に高いと思う。今、一人で暮らす高齢者が700万世帯になるとかという予想が出ている。その中で一部の人でも貧困になると、やはり就労とかという目標がある方はよいが、そうではなく、高齢になって年金がもっと高ければ思うが、3万、4万という方もいる。そういう方には本当私たちの食糧支援というものは、命綱になっているので、やめる

ことが出来ない。本人が申請した申請書には必ず担当者が記載されているので、御相談させていただいて、何人かはもうずーっと継続して食料の支援をしている。ということから、御相談で1ヶ月で終わる方もいるし、3ヶ月、もうちょっと支援してもらえれば就職が決まるとか、御家族が何とか出来るという方もいて。

議員)

最大3ヶ月というわけでないということ。

出席者)

ただそれを言うてしまうといつもでも継続してしまう。どうしますかと、3ヶ月で必ず聞いている。

議員)

今、お話しをお伺いして、行政との協働の部分であるが、96%が補助金。多分メインは行政にお願いするということであると思うが、この補助金以外の部分で、国に働きかけをしている。では、県とか市町村に対して別に何かやって欲しいこととかというのがあったらお聞かせいただきたいと思う。

出席者)

県はですね、今、私どもも「きずな再生事業」ということで、議会を通していただき、ちゃんと予算もいただいているが、市町村で、やはり地元の市町村というのが、割とメリットが一番見える形になっているわけである。ということから、支援の方法というか、例えば南アルプス市だと相互に就労支援などもしたりとかしていく中で、生活保護に1人ならなかった場合は、相当な金額が生活保護費の抑制にも当たるわけだが、そこで何がしらかの助成もいただければよいが、今のところは、その市と何か助成事業で実施すると市の方しか支援できない。ということ、厚生労働省なども南アルプス市や甲府市とやればよいというふうに御提案いただいている。市が提案して委託というような形で出来るが、私たちはそういうことを考えていないので、やはり県民ということで、山梨県内の皆さんに同じように平等にお渡ししたいという思いがあるので、一つの市とやりますとそこがちょっと難しく、それ以外にお金を使えなことになるので、出来たらこれは国の施策としてフードバンクというのを認知していただき、困ったときはフードバンクがあるっていう社会作りをしたほうがいいんじゃないかということで、今、一歩目であるが、国策としてのフードバンクっていうものを1回目となるが、やろうかと思っているところである。まだまだ4年であるので、どこまで出来るのかっていうのもあるが、ただ、先進的な韓国なども国策になって400くらいのフードバンクがあり、アメリカは、全米で200くらいのフードバンクがある。そして、アメリカのほうは資金運営として寄附などがすごく潤沢であるので、国も一つのNPOに2億円とか食品も200億とか寄贈して、生活困窮者支援をフードバンクと一緒にやっているが、日本の中では、まだまだフードバンク自体も新しい活動で知らない方も多いい中であるので、そこを本当に認知度を上げながら、皆さん社会の中でも認めていただき、そして、あったほうがよいなと思ったときにはじめて国策になっていくのではないかと思っている。まず、やり始めないことにはならないので、山梨の小さいNPOであるが、私の気持ちとしては、頑張ってそこまでやりたいなと思っているので、ぜひ御協力をお願いする。

議員)

資料の31頁に「ビル・エマーソン食糧寄付法」というのがあるが、どんな内容か。

出席者)

例えば、日本の中であると、私たちが企業とは同意書を交わしているが、安全性の面とか非常に厳しい部分もあるが、アメリカの場合は、寄贈いただいた食品で、もし、万が一食中毒などがあった場合にしても、善意で、悪意や故意はダメであるが、それ以外の部分であれば、そういったことに法的な責任はないという、そういう法律である。であるから、本当に企業が出しやすい状況になっていると思う。

議員)

それが大きいことになっている。

出席者)

本当に政策としてやっていただかないと、なかなか一つのNPOだけでは出来ないかなという感じがする。

議員)

2点目になるが、先ほど言われたように、生活保護者が213万人。額が3.7兆円もかかるということで、山梨県内でも非常にふえていると思う。不足、提供が満たない。先ほど出てきた、月に1万円くらいの食品。2人が生活していくうえでは、やっと足りるかどうかの量だろうと思うが、不足することはないのか。

出席者)

不足している。今も不足している。フードドライブ事業で、今回も3トンくらい集まる予定であるが、なんとか出来るが、なかなかそれが潤沢には。企業の協力なども「きずなBOX」ということでやっているが、地元の2社、やまととAコープだけということで、本当は、もっと全県下にあるスーパーマーケットが協力いただき、どこにでも「きずなBOX」が置けたりすると本当にいいと思うが、なかなか私たちの認知度不足というのもあり、御理解いただいていないというところもあるので、今現状、本当に不足の部分もある。

ただ、大手の日生協とかサントリーとかの大きなところからもいただいているので、一度に大量に入るが、そのどんと入ったものを、賞味期限が1ヶ月とか2ヶ月の間に処理しなければならない。また、ジュースとか、毎月3パレットくらいいただくが、それだけでは食べていけない。お米も入ったり、乾麺も入ったり、調味料も入ったり、いろいろなものが入ったりということで、県民の皆さんからの寄贈というのがやはり力強いものになっている。

議員)

理事長の話の中に賞味期限があったが、うちでは、妻も子どもたちもそうであるが、賞味期限を気にして。私も多少貧しいことも知った時代に生まれたので、もったいないと言うが、賞味期限と消費期限は違うから、あまりそういうところに神経質になると子どもたちにいい影響がない気がする。ここのルールも大切だと思うが。国策というレベルにということか。こちらでも、その処理で廃棄することが起こるのか。

出席者)

出来るだけ賞味期限内のもの。1ヶ月くらいあるものをお願いしているので、そして月に2回送っているの、相当な量をどんどん送っているの、今回3トンくらい集まっても1ヶ月から2ヶ月くらいで無くなる。お米など以外は、賞味期限はあまり気にせずなくなっちゃうという感じである。すぐに送ってしまうので。

議員)

PRで認知度という話もあったが、その点では総務委員会の委員が来ている。私も今までよく知らなかったから、今日はいい機会になった。一生懸命PRしていきたいと思う。

議員)

生活保護受給者がふえていくと同時に就学援助もふえて、子どもたちの間にも貧困が広がって、夏休みになると給食がないので、食べられないというお子さんがいるとか、ここにあらわれない貧困がかなりの層で広がっているなと思っている。生活保護につながった方はまだいい。生活保護になる前の方が確かに数倍くらいいらっしゃると思うが、その中でフードバンク山梨を一つの社会資源として利用できるシステムという流れがあったらいいんじゃないかと思うが、そこをどういうふうに考えているのか。

それから貧困になっている方々は、生活意欲の次に生活能力も含めて、だんだん衰えていったり、貧困で学力がなくてということになると、就労支援をする中では、意欲の問題であるとか、学力の問題であるとか、社会性の問題という中では、ケースワークをしていかないと、与えるだけでは、なかなか次につながっていかない中では、生活保護の担当課や民生委員と一緒にこの人をどうするかという連携であるとか、そういうものがどういうふうにしているのか、そこを聞きたいと思う。

それから、お米が送られてきても炊飯器がないと米が炊けないとホームレスの方たちに言われて、

そうだなと思ったが、と同時に、お米の炊き方を知らない。お年寄り1人で高齢者の方、男性の方は、炊飯器と米があってもどうやって炊くのかと言われて、そういうことも含めて、人間全体の生活支援をしていくという中では、いろいろな方々と連携の中にフードバンク山梨も社会資源の一つとして入って、同時に一緒に生活支援をしていくチームの1メンバーとなっただけだと、すごくありがたいし、それに私たちも関わって、一般市民も参加できるかなと思う。連携の問題を、その困っている方々の全体の生活支援を、お金と物だけでない支援のあり方を何かあれば。

出席者)

今、まさに本当におっしゃっているとおりで、私たちが支援している方は、生活保護を受ける前の方であるので、母子家庭の方もすごく多く、本当に朝に働き、昼に働き、夜に働きみたいな。私たちも今、そういう方たちの世帯を了解いただいた53世帯くらいを回り、1人1人のところで、話を聞きながら実態の調査もしているが、やはり子どもに対する貧困の連鎖というのが本当に心配になる。本当に私たちがささやかな食べ物を提供するだけではなくて、やはり社会の中からみんなが応援しているよというメッセージも共にお届けできないと、これはただ食べ物を届けている活動ではないと私は思っていて、食べ物自体が企業や市民の皆さんからの寄贈であるので、やはり受け取る側も社会から見放されていないんだな、先ほどテレビに出た方もそうであるが、みんな誰か関わってくれているんだな、という気持ちが相互に、これを寄付した方もそういう思いであるし、受け取った側も顔は見えないが、あるといういい活動で、さらに私たちも御手紙を御1人御1人に向けて書いてるので、そういう母子家庭なども含めて、高齢者の貧困やさまざまなそういうところで、今おっしゃった社会資源の一つになって、地域の中に残ることが大切だと思っているが、まだまだそこら辺が力不足であるが。

あと全体の市の方との連携とかいうのは、結構緊密にしており、連携会議というのを各市と個々に実施していて、ただ甲府市とも何回もやっているが、生活保護課の方がなかなか忙しい。そんなところまでも気が回らないというか、と思う。それで、生活保護になると担当者がつくが、一たん生活保護にならないと決まると、誰も認知出来なくなる。私たちのほうが逆に行政の方より知っている。そういう方の情報っていうのを。そこをうまく連携して、生活保護に頼る前の段階でそういう食糧支援や心の部分でのケアをするっていうのが大切なような気がする。

今、ファームの活動もやはりそういう心の部分ということで、甲府市なども生活保護を受ける方でもいいので来てくださーいと言っているが、なかなかまだそういう自立支援というところが、十分に、全国でも知られていないというのもあるので、もっともっと大勢の方がファームのほうにも来ていただきたいなと、今思っているが、まだまだだと思ふ。

議員)

本来だったら公的にやるべきことではないかということも含めて、お考えのことがあればちょっとお聞かせいただきたい。本当は、補助金とか、もっとダイレクトに生活保護の肩代わりをしているわけであるから、半分は。その分、本当はもっと来てほしいかな、と半分思ったりするわけであるが、そのことがあればお聞かせ願いたい。

出席者)

運営費のことである。まだ4年ということもあり、議員の皆さまも全員が知っているわけではないので、一つ一つこういう機会をつくっていただき、お話ししていくことも大切であるが、私たちもやはり待っている方がいるので頑張れるっていうこともあるし、県民の中にそういう方がふえてしまっていることは、まさに現実問題である。昔は、1億総中流主義ということで、私も子育てする中で、「働かざる者食うべからず」なんて育てたが、もうそういう時代は過ぎて、働きたいけれど働く場所もなくして貧困になっている方を社会の中で放置した場合、この間、立てこもりとか犯罪がいろいろと起きているが、貧困によることも、表面的には出てきていて、その前に無銭飲食したりとかして、そういうことが大きく影響して、社会が次の世代で非常に悪い形で犯罪がふえたりすることで、自己責任論が日本人はものすごく高く、アメリカよりも高い。38%とかで。アメリカは20何%であるが、そういうように自分の責任で大変になった人は、ほっとくという主義である。そういうことをすると社会の中で、思いもかけないところにもものすごい影響を及ぼす。私たちの時代はいいにしても、やはり次の子どもの世代、孫の世代っていうふうなことを考えていくと、やはりフードバンクがあって、明日食べるものがないという社会じゃない社会にしないと犯罪もすごくふえるような気がする。であるので、ぜひそういう共有感の中で、県の皆さまにもぜひ、私たちの活動が本当に順調に続けられ

るような支援をしていただくことが、私たちにとっては、本当に頼りというか、来年度に向けても運営費というところでは、確定もしていないし、1年1年に何かを申請しなければいけない。であるので、早くフードバンクというのが当たり前で、全国どこにでもあるってような社会にしなければいけないが、今のところは、そういう事情で来年度も、県の担当課のところにもお願いしているが、ぜひ、皆様方からも後押ししていただけると助かる。

議員)

いろいろと大変御苦労様。お話し聞いていると、非常に社会貢献をされていて、心から感謝の意を表したいと思っている。この資料の中で拝見すると、参加していない市町村があるが、特に私は地元地域である富士・東部地域がないということは、原因がなにかあるのか、あるいは消極的な市町村なのかなという感じがするが、そういった連携はどんなふうになっているのかなということを参考にさせていただき、一生懸命応援したいと思うが、気づいた点があるか。

出席者)

連携会議というのは、いろいろな地域とやっており、富士吉田市のところも先日実施した。上野原市のほうにも話しはしているが、全県下にお便りとか、こういうチラシなども含めて、お配りしてるんですが。フードバンクがあるというのをまだ知らないっていうのもあるんじゃないかと思う。ぜひ、もし議員のほうから声をかけていただければありがたく思う。

議員)

ちょっと消極的かなというような感じがしたが、私どもの地域にも同じような方もいて、非常に大きい関心事と感じたが、また、地元に戻っても相談をさせていただきたいと、お力を借りたいと思う。

出席者)

お配りした封筒の中に「国策としてのフードバンク」というチラシが入っており、ぜひ参加していただきたいと思う。県の議員の皆さんお忙しいとは思いますが、時間があるようであれば、ぜひ参加いただきたい、みんなで考えていける機会ということで、私たちだけのフードバンクのことでないので、フードバンク全体を全国に残したいっていう思いでいるので、ぜひ後押ししていただけるように県の議員の皆さまに来ていただけると助かる。

議員)

本当に素晴らしい活動で、理事長が立ち上げの頃から少し距離を置いて見させていただき、あるときは恩恵にあずかっている1人でもあるが、私は逆に、今後、今までは理事長の高い見識の中で、この法人が運営されている。そして今後、行政の方が、少し言葉は悪いがもたもたしているというか、少し後を追うような状況の中で、おんぶにだっこしている状況で、今からもうちょっと広がりが出たときに理事長の手の届かないところというか、わかりやすく言うと、私たちもガラスの器のようにうまく座ってもらいたいというふうに、本当に行政の隙間を埋めてくれているので、ここで何かあったら大変。何かというと、例えば、職員の行動とかを含めて、私はむしろ今後、大きくなったらその部分が心配であるが、その件だけについて、ちょっときついというか、今後心配という意味で、今、どうこうという意味では全くない。ただ、大きくなればやはり理事長の手の、目の届かないところで、何かマイナスのイメージがあると全部がダメになっていくような気がするので、その点のところだけを伺いたい。

出席者)

すごい御心配いただき、心にとめていただいているので感謝する。私自身もこれは、次の世代につないでいくということで、本当に人材というか、育成も進めていかなければ、私も仕事を辞めており、その後の第2のステージということでやっているの、若い方にバトンタッチもしなければいけないが、目の届かないところのことで何かあるような気もするが、ただこのフードバンクというのが、非常に営利に根指していない、人々の共感を呼ぶ活動でもあるので、そういったところを見ていただくしかないのかなと思っており、もし皆様方のところでそういうようなことが、お耳に入るようなことがあったら、ぜひすぐに、私もそういう意味では、無頓着なところもあるので、声かけしていただいたり、アドバイスをいただくことが、一番大切なことと思っている。そういう意味で、こういう信頼関係とか人間関係、私自身のコミュニケーションというか、そういう幅広いネットワークというのも大切な

と思う。また、議員の皆さま、非常に県下で見識も高いので、何かあったらぜひご一報いただいたりとかするというコミュニケーションの中でなんとか克服できればと思うが、お気づきの点はぜひ委員の方から願います。



※若草生涯学習センターにおいて、意見交換会を実施した

※意見交換会終了後、倉庫兼作業所を視察した。